



災害・事故報告書(速報)

静岡電気引込工事センター

社長		発行者
榊		伊東

受信	平成 30 年 11 月 5 日(水) 16 : 00		
事故の種類	感電・墜落・災害・交通・ <u>その他(異常電圧)</u>		
発生日時	平成 30 年 11 月 2 日(金) 16 : 00 頃 天候 晴れ		
発生場所	場 所 : 静岡市駿河区小鹿 1 丁目地内 電柱番号 : 01 才 302		
被災者 (作業者)	直営(専任班) 協力班) 協力工事店 A B C 公衆(男・女)(死亡・負傷)		
	所属 (株)***** 氏名 ***** 満年齢 **歳 (引込 s)		
<p><概要></p> <p>・新築家屋の引込線・計器取付と臨時契約引込線撤去工事に出向し、臨時契約引込線撤去工事中に、誤って隣家の引込線の中性線(N線)のPJコネクタを緩めたため異常電圧が発生し、家電製品を損傷させた。</p> <p><発生状況></p> <p>11月2日(金)</p> <p>15:00 現場到着、周辺にあいさつ、TBM・KYを実施。</p> <p>15:10 作業員Aが家屋側、作業員Bが電柱側の分担で作業を開始した。</p> <p>15:20 作業員Bが新設引込線(14コアDV*3)を電柱側から延線を開始。</p> <p>15:40 延線が完了し作業員Aが家屋側支持点を接続した。</p> <p>15:45 家屋側支持点の接続が完了したので作業員Bが電柱側を接続した。</p> <p>16:00 新設工事が完了したので、臨時契約引込線(14コアDV*2)の撤去を開始した。作業員Bが柱上の黒線PJコネクタを外し、続いて緑線(N線)を解線しようとしてPJコネクタを緩めたときに「パチッ」と音がしたため解線する線を間違えたことに気づき、PJコネクタを締めなおした。</p> <p>16:05 隣家の方から監督者に「電気が消えた」との申し出があった。 この時、監督者は作業員Bが解線する線を間違えたことを知らなかった。 隣家の方に電気の点灯状況を確認してもらい、点灯していることを確認した。 その後、作業員Bに「何かあったか」と尋ねたが「何もない」との返事だった。 作業員Bは、PJを少し緩めただけなので問題はないと思っていた。 監督者は、電線は切れていないとの先入観で分電盤まで調べず調査が不足していた。 監督者は、電気も点灯したし、電線も切っていないので、引込工事センターと会社に報告しなかった。</p> <p>16:10 臨時契約引込線の撤去を再開した。</p> <p>16:20 作業完了し片付けをして現場を離れた。</p> <p>22:30 中部電力に隣家の方から連絡が入り、「新築家屋の引込線工事の手順間違いにより家電製品が壊れた」旨の申し出があった。お客さまの都合で11/5に対応することになった。</p> <p>11月5日(月)</p> <p>10:00頃 中部電力静岡(営)契約課から、引込工事センターに「11/2に小鹿で施工した工事で何か異常はなかったか」との問い合わせが入った。</p>			

- 10：00 頃 センターから監督者に確認したところ「隣家の引込線には触っていない」との返事があり、その旨を中部電力静岡(営)契約課に報告した。
- 12：00 頃 中部電力静岡(営)契約課から、お客さまへ連絡し、今回の工事では引込線を触っておらず当社工事と関係ない旨伝えたものの、会話の中で異常電圧が入ったような症状の申し出があったため再度確認する旨を伝えた。
- 14：00 頃 中部電力静岡(営)配電建設課が現場調査に出向し、お客さまが在宅であったため、もう一度状況を確認した。
新築家屋の引込線工事中に家の照明がパカパカして焦げ臭いにおいがした後に、工事をしてきた人が確認に来たという話を聞き、監督者が言っている事と食い違っていることがわかった。聞き取り後、お客さま宅の引込線の接続状況を確認した結果、緑線（N線）を一度緩めたような痕跡を確認した。
- 16：00 頃 センター長・監督者・作業員 B が中部電力静岡(営)で聞き取りを受けた。
聞き取りの結果、緑線（N線）の PJ を完全に外したわけではないが、緩めたことにより接触不良となり異常電圧が入ったと推測される。
- 19：00 中部電力静岡(営)配電建設課担当者とセンター長がお客さま宅に出向き謝罪を行った。
事実を説明し、壊れたものについて補償させていただくことを伝え了承いただいた。
被害状況（破損機器）
洗濯機、炊飯器、DVD レコーダー、各 1 台
洗濯機と炊飯器はすでに買替済、DVD レコーダーはお客さまが修理手配する。

<原因>

- ・撤去電線を手で手繰り少し動かして確認したが、一度手を離してしまった。
- ・撤去電線を間違え、PJ コネクタ緩めたときに「パチッ」と音がしたが、切り離してはいないため大丈夫だと思い込んだ。
- ・電線を切り離す順番を重視し、緑線が切れた時のリスクの認識が甘かった。
- ・監督者は作業に問題はないという先入観で詳細の調査をしなかった。

<対策>

- ・別途、事故検討会で対策を検討する。

処 置

- ・破損機器の買替、修理費用を補償する。

備 考